

『表現の工夫』とは

文学的文章では、心情や情景を効果的に伝えるために、さまざまな表現の工夫がされている。表現の工夫の代表的なものを押さえておこう。

対象を印象的に表現する工夫

比喩法… あるものを別のものにたとえて表現する。

擬態語… (直喩・隠喩・擬人法)

擬音語… ものの状態をいかにもそれらしく表した語。

擬声語… 物の音や生き物の声などをまねて表した語。

(擬声語)

余韻を残したり、強調したりする工夫

省略法… 文を言い切らずに、言葉を省略する。

倒置法… 言葉の順序を表現上の効果をねらって逆にすること。

体言止め… 文末を体言(名詞)で止める。

身に付けると...

作品の描写を味わいながら内容を理解して読む手がかりになります！

やってみよう

〔解答と解説〕

一 (1) 机

・人ではない机を人にたとえています。

(2) 猫の目を宝石に。

・「」のよつに「」が使われています。

(3) 白い羊

・雲を白い羊にたとえています。

二 イ

・普通の語順で書くとして「アサガオが咲いている。」になります。語順を入れかえることで、早苗の驚きを強調する効果があります。

三 1 ウ

・雨の音として不自然でないものを選びます。

2 エ

・太一の気分を落ち込ませるような不快な空気の状態を表しているものを選びます。

〔練習問題〕

一 次の各文に使われている表現技法として最も適切なものを、あとのアからウの中からそれぞれ一つずつ選んで記号で書きなさい。

まるでワープロの文字のように、個性のない字が並んでいる。「樹齢百年の大木が眠っている。会場は拍手の嵐だった。」

ア 擬人法 イ 直喩 ウ 隠喩

二 次の各文に使われている表現技法として最も適切なものを、あとのアからウの中からそれぞれ一つずつ選んで記号で書きなさい。

うつむいたまま歩いてくる少女。咲いた、ひまわりの花が。「荒れ狂う波をかき分けかき分け、猛然と泳ぐ。」

ア 体言止め イ 倒置法  
ウ 反復法

解答

一、 アイア ウウ